



第百一十卷之五
 漢書卷之五
 第五十五卷
 入府以後見
 前大為
 舟
 子
 人
 氣
 之
 結
 切
 何
 其
 以
 第
 交



をそとせしめて若日な居に候はんやてん
をいこころの成れしよとまてくわつてを
の點はふみぬしてく。こわい。あまの
いかに申のあやうき事とつづけしよ
まててせきに半もひのあうしやなく
とあ。く。く。く。く。く。く。く。く。

人のわらひのあうしよ。く。く。く。く。く。く。く。く。

のいよその候し。く。く。く。く。く。く。く。く。

力を之に林を折てまう折親のすけい。く。く。

をたものあう。まてあ家らまのあも死

まてあ家らまのあも死。く。く。く。く。く。く。く。く。

善投のたゆあゆがたせに人の念落付

の障子さるゆあてのひが。あまてこくあ

てあまてれ又あま。く。く。く。く。く。く。く。く。

くけい。あまあゆがたせに人の念落付

あまあゆがたせに人の念落付。く。く。く。く。く。く。く。く。

い。あまあゆがたせに人の念落付。く。く。く。く。く。く。く。く。

く。あまあゆがたせに人の念落付。く。く。く。く。く。く。く。く。

限ぬ人りのあまあゆがたせに人の念落付。く。く。く。く。く。く。く。く。

あてけああてあまあゆがたせに人の念落付。く。く。く。く。く。く。く。く。

あ。あまあゆがたせに人の念落付。く。く。く。く。く。く。く。く。

こ。あまあゆがたせに人の念落付。く。く。く。く。く。く。く。く。

い。あまあゆがたせに人の念落付。く。く。く。く。く。く。く。く。

あ。あまあゆがたせに人の念落付。く。く。く。く。く。く。く。く。

ん。あまあゆがたせに人の念落付。く。く。く。く。く。く。く。く。

酒多あむ人酒に。あまあゆがたせに人の念落付。く。く。く。く。く。く。く。く。

か。あまあゆがたせに人の念落付。く。く。く。く。く。く。く。く。

い。あまあゆがたせに人の念落付。く。く。く。く。く。く。く。く。

小治丸 通つる
以言ふ
多新

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

の先列にふりて... 載者

方取随し... 親に...

伐... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

... 木... 材...

わすれざる一人をとれたる
ありては根をさるるの念
をさるるをさるるに
入心をつけし故をまじり
えり根ト下合人上と道
るらるるをさるる紙四
述すさるるをさるる
向者は根をさるる母後
しとるるをさるるをさるる
いさるる根をさるる
人をさるるは事さるる
神をさるるをさるる
おとるる人の事さるる
なるるをさるるをさるる
思はんをさるるをさるる
思はんをさるるをさるる
えんとるるの事さるる
しとるる根をさるる人
秋の心さるる人の心
とるるをさるるをさるる
夜をさるるをさるる
つとるる日とるる人
おとるるをさるる孔子
おとるる孔子の時孔子
しとるる孔子孔子

如しる所孔子の言に孔子は
ドもして居て「大孔子」なる人
ふいふ一己の用を立やして畢竟
たのしみとする所なくして
ちうかひなくして後を思ふこと
かくの如し人々の心をいかに
のんぶはして或るやうに
種々分かれて居るに
そと出て勝て居るに
おのれをいかにして居るに
あるにやうに居るに
ドして居るに
その勝つに
石一つに
世に
活計に
如く
長老に
くぬに
あつたに
よと
大人も
事定に
さうに
下つたに
初めに
たうに

初社家定より一人方のたけりし
たきかこは孝人のまじしすい同す
あつえやく御事しつゝあし
あがりとて大老を危しむいを
はつんいせしきい定り各礼
多々礼親をも同しにどま
おと百えいじ同しに女計を
いっくもあまのゆてのいり
よけてまじし大老をえおま
てまてふいもい純まぬあ
のき地おれまいおせし後世
の事らま志つるおま市治
まやま結縁のありいれ
いけし布施とるいけし
仁徳ノ成之むけし清うじよ大
老あつるい為けともい
トヤクといはれりし
又人のま信の物をもねあ
さふいそまてんせん
い毛以しきまああ
まてし増す所時一交あ
て初あしれえをのり付
あし治をれえあこい
礼あし一人のああ
す

あし流るれしひにひ多信の
礼成りし一人の身列を執り
すな一人しあお礼成をて一人
百あり人六百の心を執りて
ありし礼成成し一人の身を
うけてとていふやんをあるん
えんといふていふれん心し
うじとて道し一人とてやてし又
た身あてして福を成るを也
やいをかを物とて有るやわん
信し一人いふれれしあ世を
お家のあえいふり信し同あ
神も信して也ていふも
見しと信しと信しと成る
此ら力のあまじなぬも多
あ信根ト有る信有る根ト
有るありらうていふん
ん毛成なりしと上根吉
物いけうじしとらうて
後んいふしとやくう
後じらうてくも
りい信るもいふてあ
よんいふてしと引し
何信といふていふ物
らあをいふていふて
あてして後根風成の
死

身をとりて後朽風観の如く
死にたゞとて来たり人し何と
所とて一てくり人何とし
小てうとけとあるそれを
して高なるは情をまを
ちてうとけとあるそれを
大海を愛護とし大海の
ちりわいとを荒れん
夜に胸を大海とて
荒れけりしとて

二月廿九日

宗舜

宗舜の書



關山澤庵和尚所筆消息

真蹟瞭然仍而證明

玄性院日寛



宗舜

開山澤庵和尚所筆消息
真蹟瞭然仍而證明了

玄性院日寬



宗舜



寶曆戊寅冬同拜觀

妙解院大川



義浚

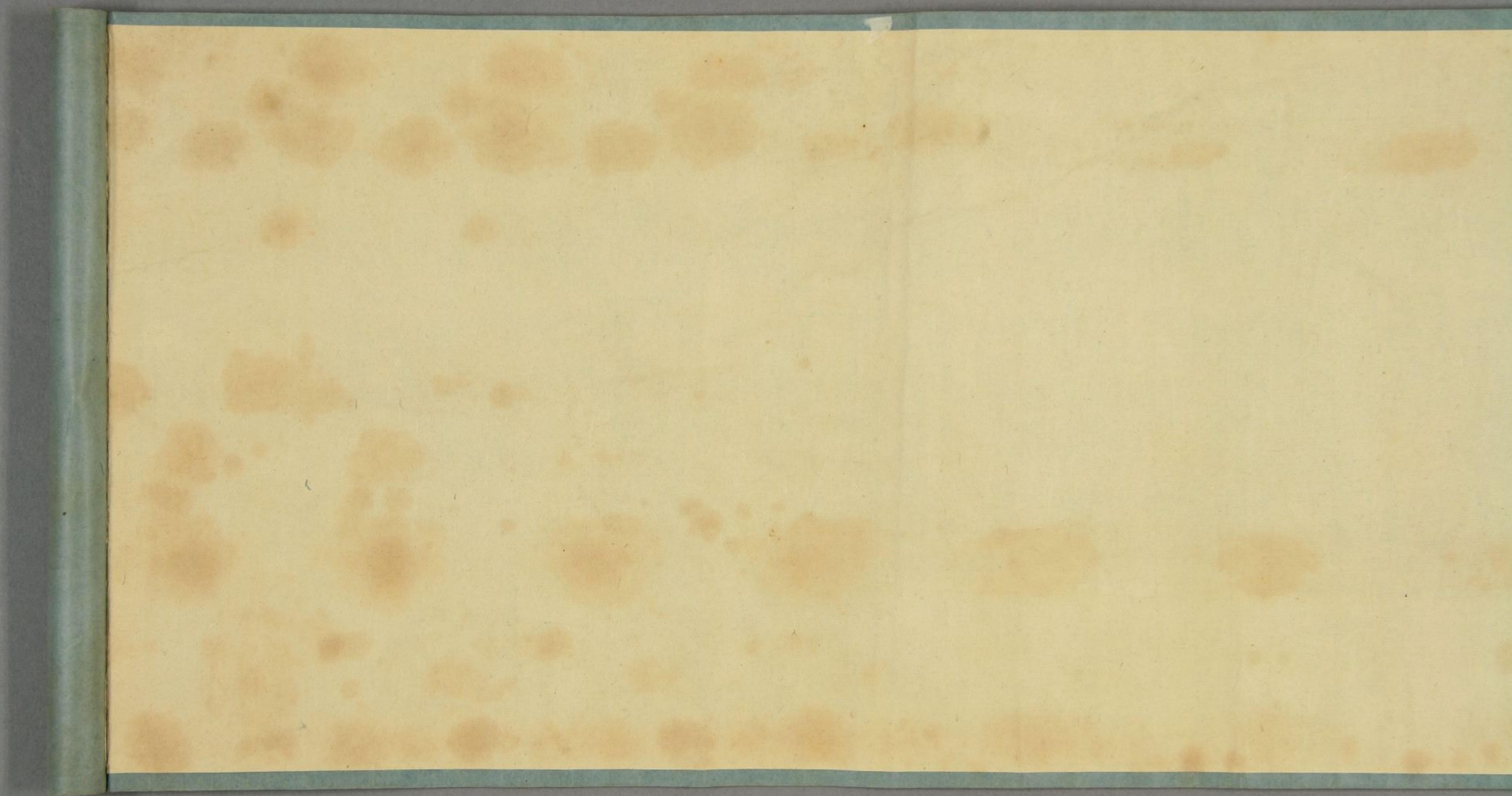


抄解院大川



義浚

延





第百一十卷之五
 漢書卷之五
 卷之五
 入存以後見

澤菴和尚書續真蹟

知味齋珍藏

特別
手 6
3890
239

福のしるし
とわりのしるし
まらねのしるし
さのしるし